

第4学年B組 国語科学習誘導案

教諭 中山 卓海

単元 要約してしようかいしよう

(本校教育課程 国語科単元 第10項 11月中旬～12月上旬 16時間)

「単元の問題」を提起する根拠

○ 子どもの興味・関心の実態

本学級の子どもは、普段から家庭から持ってきた本や図書館で借りた本を読み、新しく知ったことや興味をもったことを友達に紹介する姿が見られる。また、話しながら紹介するだけでなく、これまでの学習経験を生かして、新聞やリーフレット等の形式に読んで分かったことや考えたことをまとめる姿も見られる。そのような子どもに、教師が各都道府県の旅行先で購入した伝統工芸品と伝統工芸品について説明する本や図鑑を紹介し、教室に置いたところ、思い思いに本を手に取り、興味をもった伝統工芸品について友達と語り合ったり、読んで分かったことをノートやタブレット端末に記録したりする姿が見られた。図書を読んだ感想を尋ねると、「昔からこんなにきれいな焼き物が日本にあることを初めて知った。」「全て手作業で作っていることに驚いた。」「新聞やリーフレットなどにまとめて紹介したい。」などと話し、日本の伝統工芸品についての資料を読み、紹介することへの関心を高めている。

○ 子どもの能力の実態

本学級の子どもは、これまでの説明的文章を読むことの学習を通して、段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えやそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えることができるようになってきた。また、文章を要約することについては、短い文章から中心となる語や文を見付けることはできる。しかし、決められた分量で書くことの意識が強く、「筆者の考えの部分をより詳しく伝えたい。」「考えを説明するため事例も伝えたい。」等、自ら伝えたいことの目的を明確にして、その目的に沿って中心となる語や文を選んで要約することはできていない。

○ 社会からの要求

我々は、インターネットやSNS上から日々大量の情報を瞬時に入手することができる。また、生成AIを活用することによって、自分が知りたい情報を複数の情報源から手に入れることもできるようになってきた。このように、多くの情報を手軽に手に入れることができるようになった今だからこそ重要な力が、自分の知りたいことや伝えたいことをより簡単かつ正確に要約する力である。また、自分が特に重要だと考えることや、最も伝えたいこと等の目的に応じて、文章の内容や形式を吟味し、必要な情報を見付けることは、AIを適切に活用する上でも必要となる。このことから、自分の目的を意識して、説明文を読み、他者に伝えるために中心となる語や文を見付けて要約する学習は、大変意義深い。

○ 教科系統上の要求

第1学年及び第2学年では、順序を考えながら文章の内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことを学習している。第3学年では、段落相互の関係に着目しながら、考えと事例のつながりについて叙述を基に捉えることや、各段落の中心を捉えることを学習した。第4学年では、段落相互の関係に着目して読んだことを基に、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することを学習する。このことは、第5学年及び第6学年での、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする学習へと発展していく。

単元の問題

伝統工芸についての説明文を読み、中心となる語や文を見付けて要約し、しようかいしよう。

- 「世界にはほころ和紙」を読んで、文章の内容と構成を読み取ろう。
- 伝えたいことに沿って、中心となる語や文を見付けて要約しよう。
- 伝えたい伝統工芸についての資料を読み、要約して伝える文章を書こう。

目 標

<知識及び技能>

○ 事典の使い方を理解し使うことができる。

<思考力、判断力、表現力等>

○ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。

○ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

○ 考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

<学びに向かう力、人間性等>

○ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

誘 導 の 着 眼

【着眼1】 文章の内容と形式を関連付けて読む単元構想

(1) 文章の内容と形式を読む目的を明確にする言語活動の設定

子どもが「世界にほこる和紙」の内容や形式を捉え、目的に応じて要約をすることができるように、以下のような流れで言語活動の設定をする。

単元導入前	伝統工芸を題材として図書を読むことへの興味・関心を高めることができるように、伝統工芸品に触れたり、伝統工芸の本を読んだりする活動を設定する。
単元導入時	目的に応じた要約の難しさや学習への思いや願いをもつことができるように、伝統工芸品の本を読んで試しの要約をする活動を設定した上で、「限られた字数で伝えたいことを要約するには、資料のどの部分を中心に選ぶ必要があるのだろうか。」という子どもの問いを引き出し、学習問題を設定する。

(2) 選択・判断しながら文章の内容と形式を追求する学習活動と支援

子どもが自らの意志で文章の内容と形式を捉えたり、要約したりすることができるように、挑む段階で以下のような学習活動を選択・判断する場を設定し、個の状況に応じた支援をする。

子どもの意識	学習活動	支援
すぐに要約したい	目的と字数を設定し、要約したり、要約した文章を評価したりする活動	要約が難しかった段落を問い、文章の内容と形式を読む活動へと促す。
内容を理解して要約したい	書かれている言葉を調べたり、中心文を見付けたりした上で要約する活動	挿絵や動画を見せて内容理解を促したり、グループで音読する活動を設定したりする。
内容と形式を捉えて、要約したい	全文シートや構成表を活用し、段落相互の関係を捉えた上で要約する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全文シートや構成表の提供。 ・ 接続語や指示語への着目を促す。

【着眼2】 着目点を広げ深める学び合い

文章の内容と形式を基に、目的に応じた要約に必要な語や文を見付けることができるように、筆者の考えと理由や事例との関係に着目して、「増田さんの伝えたいこと」を要約するための学び合いを設定し、以下のように働きかける。

手立て	具体的な働きかけ
視点の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『増田さんの伝えたいこと』を要約するために必要な段落」という視点を確かめ、考えを出し合う活動を設定する。 ○ 3段落と4・5段落の関係（抽象と具体）を明らかにするために、4・5段落を要約に入れない理由について問う。 ○ 理由と事例の関係を明らかにするために、6・8・9段落を要約に入れない理由について問う。
構造の可視化	○ 文章の形式を明確した上で、目的に応じた要約ができるように、考え、理由、事例を色別に囲んだり、「和紙のよさを知ってほしい」「和紙を使ってほしい」という2つの考えに対応する、理由や事例の文を線で結んだりする。

展開計画（総時間数 16 時間）

	主な学習活動	教師のねらいとその手立て	評価の規準と観点
出会う・見いだす	1 興味のある伝統工芸品についての本を読んだり、紹介する方法を話し合ったりして、学習問題を設定する。 2	○ 伝統工芸品に関する図書を読み、魅力について要約し、紹介するという問題を見いだすことができるように、試しの要約をしたり、要約の難しさを出し合ったりする活動を設定する。	○ 自分の興味のある伝統工芸品の魅力について図書から読み取り、要約して伝えることへの意欲と見通しをもっている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	中心問題 伝統工芸についての説明文を読み、中心となる語や文を見付けて要約し、しょうかいしよう。		
挑む	分析問題 1 「世界にほこる和紙」を読んで、文章の内容と構成を読み取ろう。		
	2 「世界にほこる和紙」を読み、「和紙の魅力」や「筆者の考え」について、読み取る。 3	○ 筆者の考えや文章全体の構成を捉えることができるように、全文シートや構成表の活用など、これまでの読み方から自分に合うものを選択・決定する活動を設定する。	○ 文章構成や段落同士の関係を確認し、筆者の考えについて叙述を基に捉えている。(思考・判断・表現)
	分析問題 2 伝えたい目的に応じて、中心となる語や文を見付けて要約しよう。		
	3 伝えたい目的に応じて、「世界にほこる和紙」を要約する。 1	○ 要約の目的を明確にすることができるように、「自分が特に伝えたいこと」を決めた上で、試しの要約をする活動を設定する。	○ 進んで中心となる語や文を見付け要約しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	4 目的に応じた要約の仕方について考える。 ＜本時 2 / 2＞ 2	○ 文章の内容や全体の形式を再認識しながら、目的を意識した要約をすることができるように、筆者の考えや理由、事例の関係を話し合う活動を設定する。	○ 文章の内容と構成を基に、目的に応じて中心となる語や文を見付けることができている。 (思考・判断・表現)
5 「世界にほこる和紙」の要約を完成し、紹介する。 1	○ 目的に応じた要約をすることができるように、字数を限定し、表現を置き換えて要約する活動を設定する。	○ 字数や伝えたいことの目的に応じた要約をすることができる。 (思考・判断・表現)	
生かす・広げる	分析問題 3 伝えたい伝統工芸についての資料を読み、要約して伝える文章を書こう。		
	6 百科事典の使い方を確かめる。 1	○ 紹介する伝統工芸品について様々な方法で調べることができるように、百科事典の使い方を確かめる活動を設定する。	○ 事典の使い方を理解し使うことができる。 (知識・技能)
	7 自分が伝えたい伝統工芸品の資料を読み、要約して伝える文章を書く。 4	○ 書き表し方を工夫することができるように、工芸品の種類ごとにグループを編成し、互いに読み合い、表し方を工夫する活動を設定する。	○ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (思考・判断・表現)
8 完成した文章を読み合い、単元のまとめを行う。 2	○ 自らの成長を実感するために、完成した文章と、初めの文章を比較する活動を設定する。	○ 学んだことを今後の生活に生かそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)	

(1) 主眼

増田さんの伝えたいことを要約するために必要な語や文を話し合ったり、段落相互の関係を確かめたりする活動を通して、文章の内容と構造を基に「増田さんの伝えたいことを短く要約する。」という目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができるようにする。

(2) 本時における学びを愉しむ子どもの姿

要約に必要な語や文を見付けるために、段落相互の関係に着目し、筆者の考えと理由や事例とのつながりを吟味・検討している姿 【つくる】

(3) 準備

学びの足あと、全文シート・構成表、タブレット端末

(4) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点 (○) と評価 (※)
<p>1 前時学習を想起して、本時のめあてを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>全ての段落を短くまとめようとする300字を越えてしまうな。どの段落の文章を優先してまとめるとよいのだろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>「和紙のよさを知って、使ってほしい」という増田さんの考え要約するために、必要な語や文について話し合おう。</p> </div>	<p>○ 本時における問題意識を高めることができるように、前時までの学習を想起し、明らかになったことや疑問が高まったことについて話し合う活動を設定する。</p>
<p>2 自分の考えをグループで話し合う。</p>	<p>○ 視点を焦点化して話し合うことができるように、これまでに選択・判断した読み方が似ているグループごとに話し合う活動を設定する。 【着眼1】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【考えが似ているグループ】（類似した考えをもつ子どもが根拠を明確にすることをねらう）</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ぼくは、「和紙がじょうぶで長持ちすること」を伝えるために、6段落の「世界の博物館や美術館などで古くからある絵画や手紙の修復に使われていること」を要約に入れるべきだと思うな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>私も、その段落を要約に入れたいな。事例を入れると読んだ人も詳しく分かるからね。ただ、事例を全て入れてしまうと、字数が多くなってしまふよ。</p> </div> </div>	
<p>3 全体で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>3段落と、7段落の文章は、理由を詳しく説明しているので、要約に入れるべきだね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>事例の段落の文章は、入れなくてもいいのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>事例の段落を要約に入れないと考えた人は、どうしてそう考えたのですか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>事例は「和紙のよさ」や「気持ちを表すことができる」という理由を支えるものなので、増田さんの伝えたいことを簡単に要約するときには、入れなくてもいいと思ったからです。</p> </div>	<p>○ 全体での話し合いの視点を焦点化するために、タブレット端末でグループごとにどの段落の語や文を選んで要約するかをまとめたものを共有する。</p> <p>○ 筆者の考えと理由や事例のつながりに着目して、要約するための中心となる語や文を見付けることができるように、子どもの思考の流れに沿って「事例を要約に入れない理由」を問う。 【着眼2】</p> <p>○ 筆者の考えと理由、事例とのつながりを明らかにすることができるように、子どもの全文シートや構成表を基に、文章形式を板書で整理する。 【着眼2】</p>
<p>4 本時学習をふり返り、次時の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>事例がどの考えにつながっているかを意識すると、必要な文を見付けることができました。また、事例は理由を具体的にすることも分かりました。 ぼくが、伝統工芸品のよさを伝えるときには、具体的な例を要約に入れると読む人に詳しく工芸品のよさが伝えられそうです。</p> </div>	<p>○ 本時の学びをふり返り、次時の見通しをもつことができるように、「今日の学習で学べたこと」「自分の要約に生かしたいこと」をふり返る活動を設定する。</p> <p>※ 文章の内容と構造を基に、目的に応じて中心となる語や文を見付けることができている。</p>